



I.B.MUSEUM SaaS リニューアル情報 EXPRESSIONS

発行元:早稲田システム開発株式会社 東京都新宿区高田馬場4-40-17 tel.03-6457-8585

✉ mapps@waseda.co.jp 🏠 www.waseda.co.jp/

Vol.15 2023.5.15 今回のテーマ | 帳票設定

今回の内容

日頃は「I.B.MUSEUM SaaS」をご利用いただき、誠にありがとうございます。

今回は、システムの帳票作成機能をご案内いたします。今から4年と少し前の2018年12月に追加された機能で、I.B.MUSEUM SaaSの機能群の中では比較的新しい部類に属します。

日常業務で使用する資料カードや貸出許可書、出品リストといった文書類は、施設や自治体によって書式が大きく異なります。これを収蔵品管理システム内で作成したい場合、カスタマイズが前提となるパッケージソフトであれば（コストをかければ）自館の専用仕様を設定することが可能ですが、同じシステムを共有するクラウドサービス内で自在に帳票をデザインすることは、分類や項目のカスタマイズと同様にかなり難しいとされてきました。

社会全体でペーパーレス化が進んではいますが、資料や作品に関わる業務の中では紙の文書や書類はまだ大きな比重を占めるのが現状です。そのため、システム内に用意された専用の書式で文書作成を完結でき、そのまま出力できる機能は、システム構築に多額の予算をかけられない多くのミュージアムにとってはまさに念願の機能だったのです。

システムを導入していても、こうした文書については外部のOffice系ソフトで作成する館が多数を占める中、I.B.MUSEUM SaaSでは帳票作成機能の実現が大きなミッションとなっていました。安定性を大きく損なうことなく収蔵品管理システムの内部に帳票の作成・編集・出力機能を組み込むにあたっては、かなりの困難に直面しましたが、今回のリニューアルでは再びこの機能と向き合うことになりました。

何度かお伝えしています通り、今回のリニューアルはユーザーインターフェイスの改善がテーマです。これに照らすと、現在の帳票作成環境をそのまま新画面に置き換えればよいこととなりますが、次ページにてご説明する理由から、今回は新画面の開発を見送り、リニューアル後に

I.B.MUSEUM SaaS リニューアル情報 EXPRESS 発行予定

Vol.1	2022/1/31	リニューアル計画概要とログイン画面
Vol.2	2022/2/28	デザインコンセプトとホーム画面
Vol.3	2022/3/31	検索トップと検索結果一覧
Vol.4	2022/4/30	詳細画面の特徴
Vol.5	2022/5/31	データ登録方法とクリップリスト
Vol.6	2022/7/15	人物・名簿とメディア
Vol.7	2022/8/31	資料利用
Vol.8	2022/9/30	公開設定
Vol.9	2022/10/31	リニューアルQ&Aとここまでのまとめ (公開設定までを振り返り)
Vol.10	2022/11/30	分類・項目設定
Vol.11	2023/1/15	一括処理
Vol.12	2023/2/15	ユーザ管理
Vol.13	2023/3/15	ユーザ権限
Vol.14	2023/4/15	移行方法と並行運用について
Vol.15	2023/5/15	帳票設定 Now!
Vol.16	2023年9月ごろ	総集編 (Vol.1からVol.15までを1冊に)

予定しております機能追加以降の課題として継続的に検討することになりました。

ただし、上記の通り、システム上での帳票作成は業務上で必須とする館が非常に多いことから、今回のリニューアルでは追加機能としてI.B.MUSEUM SaaSと連携可能な外部の帳票出力製品をご活用いただけることになりました。もちろん追加料金ゼロでご利用いただける上に、現行機能も現行画面のまま継続いたします。これらの経緯・意図と追加機能の内容について、この後に詳しくご説明いたします。

I.B.MUSEUM SaaS オリジナル帳票機能と、 専用外部製品利用の二本立てに。

はじめにご紹介いたしました通り、I.B.MUSEUM SaaSの帳票作成機能は2018年12月に搭載されました。この機能ができるまで、システムに登録されている収蔵品データを利用して帳票を作成するには、まずMicrosoft Wordなどで作成した書面を用意し、システムからMicrosoft Excelへと出力したデータを貼り付けたり、プリンタで差し込み印刷を行うといった工夫が必要でした。

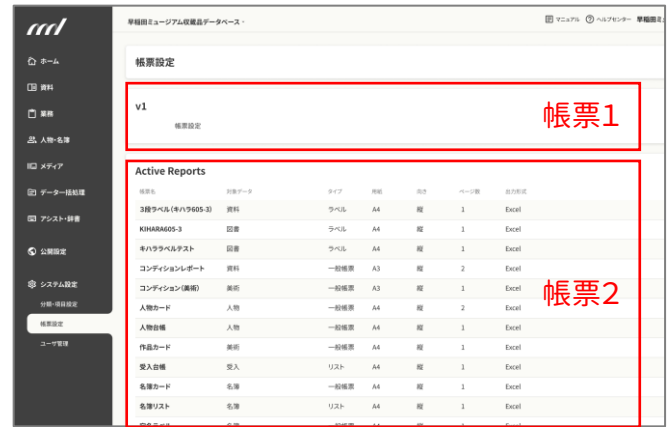
こうした手間を解消すべく開発したI.B.MUSEUM SaaSの帳票作成機能は、十分に実用に耐えるものに仕上がりました。実際に多くのユーザの皆様からご評価をいただき、現在では代表的な機能のひとつとなっております。しかしながら、弊社サイトで連載中の「ミュージアム・インタビュー」でも頻出しております通り、人気機能ゆえにユーザの皆様から非常に多くのご要望をいただくこととなりました。

今回のリニューアルは、原則として機能・仕様の変更はありません。しかし、以下に一例をご紹介しますが、ここまでご要望の多い機能をインターフェイスの変更だけに留めてよいのかという意見があり、現在も議論が続いております。大原則を遵守して現行機能をそのまま新画面とするのか、ご要望にお応えする機能改善を行うのか。いったん開発を進めると後に影響することから、この機能は一度集中的に再検証すべきという結論となり、今回は外部の専門製品を採用して連動させるという手法を採ることといたしました。

収蔵品管理システムの内部に組み込むという強い縛りがない同製品は、ご要望の多くを満たす機能を備えています。おそらくは多くの方に違和感なく便利にお使いいただけるはずですが、ひとつだけ問題があります。それは、外部製品の新規導入となるため、現行の帳票作成機能で作成されたデザインをそのまま使うことができないことです。

この問題の解決策として、今回のリニューアルでは現在の帳票作成機能もそのまま残すことといたします。前ページで「追加機能」と書いたのはこのためで、結果的に「現行の帳票作成機能」と追加分の「外部の帳票作成専門製品」をお選びいただけることになります。

現行機能なら、これまでと変わらずお使いいただけます。追加機能では、帳票デザインが使えない代わりに、これまでいただいた多くのご要望が実現します。ここでは、そんなお声を10個ほど抜き出し、例としてご説明いたします。



採用予定の製品

製品名	ActiveReportsJS
開発元企業	グレースィティ株式会社
URL	https://www.grapecity.co.jp/developer/activerportsjs

外部製品の利用により実現するご要望

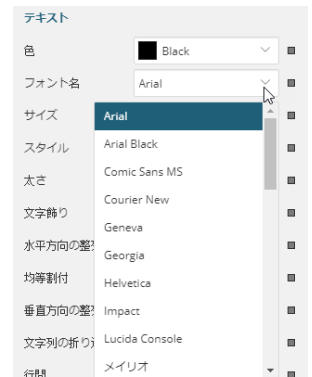
これまでお寄せいただいたご要望の多くが、追加機能となる外部製品で実現します。ここでは、一例をご紹介します。

ご要望1

ゴシック体、明朝体で1種類ずつしか使えないフォントの数は増やしてほしい。

対応1

フォントは初期状態で約30種類が用意されています。また、新院追加することも可能です。



ご要望2

色ベタ、白抜き文字などの装飾を使いたい。

対応2

テキストの文字色、テキストを表示する領域の背景色はともに変更することが可能です。

ご要望3

利用可能な罫線の種類を増やしてほしい。

対応3

罫線は4種のスタイルを利用できます。また、色や太さも指定することができます。



ご要望4

文書が複数ページにまたがる場合は最下部に同じ情報を表示したいので、フッターを設定できるようにしてほしい。

対応4

ヘッダー、フッターはともに設定が可能です。

ご要望5

窓あき封筒の窓の部分に宛先がきちんと収まる形でのレイアウトできるようにしてほしい。

対応5

各要素の表示位置を微調整できますので、宛先部分を使用する封筒に合わせてレイアウトすることも可能です。

ご要望6

帳票レイアウト作業の際、画面表示の拡大・縮小ができるようにしてほしい。

対応6

画面のズーム機能を利用して、拡大・縮小が可能です。

ご要望7

数値・金額項目では、「1000」を「1,000」というように自動的にカンマを振ってほしい。

対応7

数値の表示形式を指定する機能を備えていますので、書式や表示桁数などの設定も可能です。

ご要望8

帳票に出力した日時を自動的に表示したい。

対応8

表示・出力した日時を日付形式で表示する機能を備えています。

ご要望9

現在はWordで編集・出力しているが、行ごと削除したり切り取って挿入したりする操作を頻繁に行うので、Excel形式で出力したい。

対応9

Excel形式とPDF形式での出力が可能です。

ご要望10

二次元バーコードの出力ができるようにしてほしい。

対応10

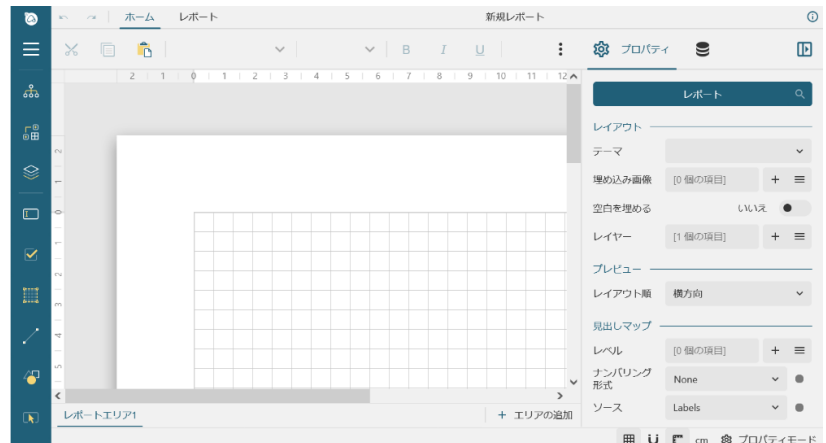
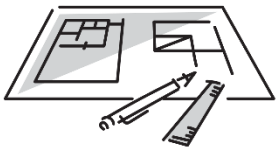
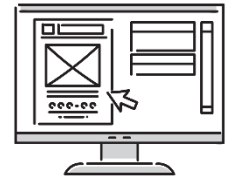
QRコード、郵便カスタマバーコードなど32種類のバーコード規格に対応していますので、バーコードを使った收藏品の管理などにもお役立ていただけます。

その他外部製品採用で実現すること

今回のリニューアルでお使いいただける「ActiveReportsJS」の画面は、以下のようなイメージとなります。

Excel形式・PDF形式での出力が可能で、現行機能ではいくつかのステップを介さなければならなかった表計算での加工作業が大幅に短縮されます。また、出力する数値を集計する欄を設けることができますので、数値の合計欄などを含む帳票を作成しやすくなります。

また、数値のグラフ化も可能。折れ線グラフ、棒グラフ、円グラフなど31種類のスタイルが用意されています。さらに、行間や文字ピッチの指定、均等割付、縦書き、禁則処理、長体での表示などの機能を自由に活用できますので、よりきめ細かな調整が実現します。



ここまでのまとめと次号のお知らせ

ここまでお読みいただき、誠にありがとうございました。今回ご紹介いたしました追加機能となる帳票設定製品は、資料・作品カードの出力だけでなく受入や貸出など、さまざまな業務で使用する書類を作成できます。形の上では、これまで「システムの外」で行ってきた業務をシステムでの作業に取り込むこととなりますので、出力帳票のスタイルによっては現行機能での作業量を劇的に軽減することが可能になるはずです。

さて、今回のリニューアルにまつわる各機能のご説明は、今回で終了となります。次号はいよいよ「総集編」をお送りする予定です。開発はも最終段階に入っておりますが、細かな調整も並行して続けております。すでに告知いたしております通り、ベータ版を10月にリリースする予定ですので、新旧を比較しながらお試しいただけるよう、総集編はベータ版リリース直前にお手元にお届けするスケジュールで準備させていただきます。

ということで、現状では、次号のお届けは9月を予定しております。しばらく間が空きますが、今後ともよろしく願いたします。

- ※ 掲載スケジュールは、すべて発行時点での予定です。開発の状況により変更となることがございます。
- ※ 掲載のリニューアル画面は開発中のものです。